

第2章 青葉区の将来都市像



1 将来都市像

個性豊かに成熟する都市「丘の横浜・青葉区」

～誰もが住み続けたい・住みたいまち～

青葉区が誕生したときの区づくりの目標は「個性豊かに成熟した都市『丘の横浜・青葉区』」としており、「豊かな緑に抱かれて、安らかで快適な暮らしが息づくこの街は、人のぬくもりに満ちたコミュニティ。イキイキとした生活文化を発信する丘の街」という意味が込められています。

これは青葉区の地形的特徴を表現するとともに、これまで維持・創造されてきた水と緑の自然的環境と魅力的な住宅地の街並みを、今後も引き続き維持・発展させ、個性あるまちづくりを進めていくという方向性を表しています。また、子供から高齢者まで多様な世代が集い、イキイキと個性的な活動を進める活力あるコミュニティの姿を表しています。

このような青葉区の姿は「『次世代に引き継ぐまち』づくりを目指す」という理念のもと、今後も引き続き目指すべき区の姿です。既に青葉区に生活している人が住み続けたいと思い、区外に生活している人も青葉区に住みたいと思う、誰もが「住み続けたい・住みたい」と感じられる緑豊かで生活しやすいまちが青葉区の将来都市像です。

よって、「丘の横浜」として形成されてきた魅力あるまちを維持し、それを多様な世代にとって望ましい形で成熟させ次の時代に残すことを、まちづくりに関わる住民、事業者、行政共通の責務として、この将来都市像を掲げるものとします。


2 将来都市構造

将来都市像を実現するため、鉄道駅周辺の利便施設へのアクセスが容易にでき、まとまった自然の魅力を感じられ、更に環境負荷の少ない都市構造として、鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地を基本とします。また、鉄道が主に区の南側を通っていることから、鉄道駅周辺だけでなくより身近なエリアにおいても、日常生活に必要な機能を集積した拠点を設定します。


(1) 都市活動の拠点

都市活動の拠点として、鉄道駅を中心とするエリアを「生活拠点」、駅まで離れた大規模団地を含むエリアを「生活支援拠点」と位置付け、鉄道沿線の特色を生かした機能集積を図るとともに、両拠点同士で連携を図ります。


① 駅勢圏が大きい生活拠点

たまプラーザ駅、あざみ野駅、江田駅、市が尾駅、青葉台駅の各駅を中心とするエリアを「駅勢圏が大きい生活拠点」とし、それぞれの圏域の大きさや特徴に合わせた商業・業務・文化・スポーツ・行政サービスなどの機能を集積し、個性ある拠点を形成します。()


② 生活拠点の一体化

たまプラーザ駅からあざみ野駅にかけては、連続的なにぎわいを創出します。()

③ 駅勢圏が小さい生活拠点

その他の鉄道駅を中心とするエリアを「駅勢圏が小さい生活拠点」とし、日常生活に必要な商業などの機能を集積します。高速鉄道3号線(市営地下鉄ブルーライン)の延伸によって新駅が開業した場合についても同様とします。()

④ 生活支援拠点(すすき野、鴨志田、奈良エリア)

鉄道駅まで離れた大規模団地を含むエリアを「生活支援拠点」とし、日常生活に必要な買物・サービス施設やコミュニティ施設などの機能を集積し、生活利便性を維持・向上します。()

(2) 交通ネットワーク

都市活動を支える交通ネットワークを、鉄道、道路によって形成します。また、生活支援拠点と鉄道駅とを結ぶ主要な地域交通を中心として、バス交通等公共交通の充実を図ります。

① 鉄道

東急田園都市線、こどもの国線及び高速鉄道3号線（市営地下鉄ブルーライン）により鉄道のネットワークを形成します。（既存路線：—□— 計画路線：◁○○○）

② 骨格道路

国道246号線、日吉元石川線、横浜上麻生線、環状4号線、真光寺長津田線、川崎町田線、新横浜元石川線及び恩田元石川線、区内の主要なバス通りである奈良西八朔線と黒須田133号線により区内の移動と交流をスムーズにする格子状の道路網を「骨格道路」とします。（——）

③ 広域道路

東名高速道路、高速横浜環状北西線、国道246号線により都市間を結び、広域的な移動と交流をスムーズにします。（↔）

(3) 水と緑の骨格

丘を浸食することにより青葉区の地形を形成してきた河川とその周辺の樹林地・農地を結ぶ水と緑のネットワークを構成します。

① 水と緑の軸

鶴見川（谷本川）、早濑川、恩田川・奈良川とその周辺を水と緑の軸とします。河川周辺には農地や公園などのオープンスペースを確保するとともに農業を振興し、多様な生き物が生息できる環境を保全・創造します。（↔）

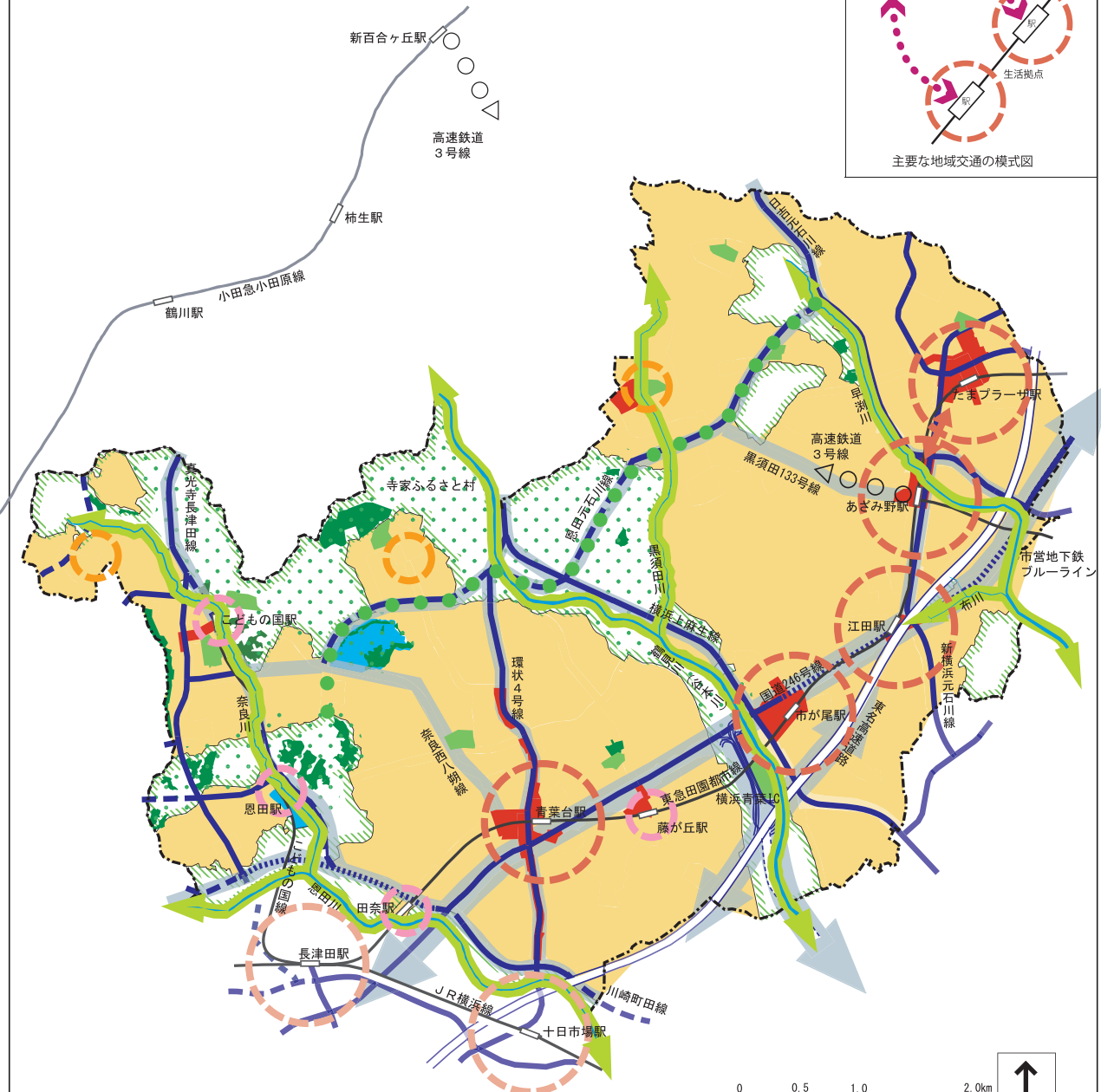
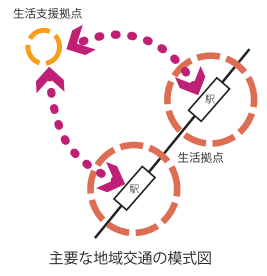
② 緑の拠点

横浜市の緑の10大拠点の一つとして位置付けられているこどもの国周辺地区の樹林地や農地を保全し、谷戸、ため池などの青葉区原風景を保全します。（□□□）

③ 主な緑のネットワーク

恩田元石川線により、三つの水と緑の軸や緑の拠点を結ぶ緑のネットワークを構成します。（●●●●●）

将来都市構造図



凡例

	区界		幹線道路 (既存)		住居系地域		主な公園 (既存)
	鉄道 (駅) (既存路線)		幹線道路 (整備予定)		商業・業務系地域		水と緑の軸
	鉄道 (計画路線)		幹線道路 (計画等)		工業系地域		緑の拠点
	高速道路 (既存)		骨格道路		自然的土地利用を中心とする地域		主な緑のネットワーク
	高速道路 (整備予定)		広域道路		特別緑地保全地区、市民の森等 (既存)		主要な地域交通
							駅勢圏が大きい生活拠点
							生活拠点の一体化
							駅勢圏が小さい生活拠点
							生活支援拠点